

中国思想専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
中国思想概論	魏晉南北朝思想史概論	2	齋藤 智寛	3	火	1	1
中国思想概論	中国近代前期思想史概論	2	三浦 秀一	4	火	1	2
中国思想基礎講読	中国思想文献講読・初級1	2	三浦 秀一	3	金	2	3
中国思想基礎講読	中国思想文献講読・初級2	2	齋藤 智寛	4	金	2	4
中国思想各論	明朝万暦期の陽明学	2	三浦 秀一	5	木	2	5
中国思想各論	中国仏教史書の諸問題	2	齋藤 智寛	6	木	2	6
中国思想各論	『礼記』の研究	2	末永 高康	集中(6)			7
中国思想演習	漢代思想文献精読	2	齋藤 智寛	5	水	2	8
中国思想演習	『延平答問』を読む	2	三浦 秀一	6	水	2	9

科目名：中国思想概論／ Chinese Thought (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 1 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：齋藤 智寛 (准教授)

講義コード：LB32101, **科目ナンバリング：**LHM-PHI202J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

魏晋南北朝思想史概論

2. Course Title (授業題目)：

Intellectual History in Wei-Jin through Northern and Southern dynasties era in China

3. 授業の目的と概要：

漢王朝の崩壊から隋の再統一に至るまで中国大陸は 400 年以上にわたる分裂期を経験したが、この時代には『易』『老子』『莊子』への関心を根底に置いた玄学の思想にはじまり、後漢における仏教伝来を受けようやく成熟した仏教と道教の思想と実践、貴族文化を背景とした士大夫たちの学術など、中国の南北において多彩な思索が展開された時代と言える。本講義では、原典の日本語訳を主な材料に魏晋南北朝時代の代表的な思想作品を紹介し、その内容と思想史上の意義を解説したい。

4. 学習の到達目標：

講義で取り上げられた諸思想と歴史的背景とについて理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、魏晋思想前史 (1)：後漢末の政治思想
- 2、魏晋思想前史 (2)：後漢末の宗教思想
- 3、後漢魏晋の古典解釈学
- 4、魏晋玄学の思想 (1)：王弼の『周易注』と『老子注』
- 5、魏晋玄学の思想 (2)：郭象の『莊子注』
- 6、魏晋玄学の思想 (3)：嵇康と阮籍の思想
- 7、『魏書』 釈老志に記された仏教と道教
- 8、『抱朴子』の思想
- 9、鳩摩羅什一門の仏教思想
- 10、『真誥』の思想
- 11、南朝梁の思想と学術：皇侃の『論語義疏』
- 12、南朝梁の思想と学術：士大夫の仏教思想
- 13、南北朝時代の諸子：『金樓子』と『劉子』
- 14、『顔氏家訓』の思想
- 15、まとめ

6. 成績評価方法：

学期中の小テストまたは小レポート (50%)、期末レポート (50%)

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書は講義中に随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

紹介された参考書は積極的に読んでみることを。

9. その他：なし

科目名：中国思想概論／ Chinese Thought (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 1 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：三浦 秀一（教授）

講義コード：LB42101, **科目ナンバリング：**LHM-PHI202J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

中国近代前期思想史概論

2. Course Title (授業題目)：

Ming-Qing China Intellectual History

3. 授業の目的と概要：

二千年ものあいだ続いてきた王朝体制が終焉を迎えようとしていた清末期から、欧米をモデルとした新たな政治体制のもとで人々が活動を始めた民国初期という変動の時代において、中国の知識人たちは如何なる思想を構想し、また相互にその思想を磨き合ったのか。授業では、いわゆる中国近世前期思想史上のトピックを個別に取り上げ、原典の翻訳文を参考にしながら、人々による思索をあとづける。清末期中体西用論、変法思想、革命思想、民国初期における国共合作の思想などが、取り上げる予定のトピックである。

4. 学習の到達目標：

清末民国初期に活躍した様々な知識人による思想的言動を、その時代背景とともに理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンス

第2回：清朝後期の政治的課題と知識人

第3回：清朝後期の民衆叛乱（白蓮教・太平天国）

第4回：中体西用論①（王韜・鄭観応）

第5回：中体西用論②（張之洞）

第6回：変法思想の諸相①（康有為・何啓・胡礼垣）

第7回：変法思想の諸相②（楊文会・譚嗣同）

第8回：変法思想の諸相③（嚴復・梁啓超）

第9回：清末の革命思想①（孫文・章炳麟）

第10回：清末の革命思想②（民報・新民叢報）

第11回：清末の革命思想③（劉師培・何震）

第12回：辛亥革命以後の論争①（蔡元培・陳独秀・李大釗）

第13回：辛亥革命以後の論争②（李大釗・胡適）

第14回：辛亥革命以後の論争③（東西文明論・陳独秀・杜亜泉）

第15回：辛亥革命以後の論争④（中国共産党・国民党）

6. 成績評価方法：

3回の課題レポートによって成績を判断する。

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せずプリントを配布する。参考書は講義のなかで紹介する。

8. 授業時間外学習：

レポート作成の準備を兼ねて、講義時に配布し解説をおこなったプリントを読み直し、関連する概説書や研究書・研究論文などによって、当該知識を補充するとともに、その理解を深めておく。

9. その他：なし

特になし。

科目名：中国思想基礎講読／ Chinese Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：三浦 秀一（教授）

講義コード：LB35206, 科目ナンバリング：LHM-PHI209J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

中国思想文献講読・初級 1

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Chinese Philosophical Classics 1

3. 授業の目的と概要：

思想的な内容をもつとともに、訓点などが施された中国古典のテキストに対し、受講者各自が訓読や現代語訳、注解をおこなう。そうした訓練を重ねるなかで、高校段階における「漢文訓読」のレベルを超え、中国の古典文に対する深い読解が可能になるような基礎力を身につける。

4. 学習の到達目標：

思想系の中国古典文において特徴的な語彙や語法を知るとともに、古典文全般に対する基礎的読解力を培う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンスとテキストの紹介

第2回：中国古典文の読解と討論（1）

第3回：中国古典文の読解と討論（2）

第4回：中国古典文の読解と討論（3）

第5回：中国古典文の読解と討論（4）

第6回：中国古典文の読解と討論（5）

第7回：中国古典文の読解と討論（6）

第8回：中国古典文の読解と討論（7）

第9回：中国古典文の読解と討論（8）

第10回：中国古典文の読解と討論（9）

第11回：中国古典文の読解と討論（10）

第12回：中国古典文の読解と討論（11）

第13回：中国古典文の読解と討論（12）

第14回：中国古典文の読解と討論（13）

第15回：中国古典文の読解と討論（14）

6. 成績評価方法：

授業時間内における報告内容（50％）、討論への参加度（50％）

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せずプリントを配布する。参考書は講義のなかで紹介する。

8. 授業時間外学習：

漢和辞典を活用した、徹底的な予習。

9. その他：なし

特になし。

科目名：中国思想基礎講読／ Chinese Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：齋藤 智寛（准教授）

講義コード：LB45203, 科目ナンバリング：LHM-PHI209J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

中国思想文献講読・初級 2

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Chinese Philosophical Classics 2

3. 授業の目的と概要：

句読点が施された中国思想文献を読む。漢文の基本的な語法に習熟すると共に、思想文献特有の思惟方法や表現形式に慣れるのが目的である。

4. 学習の到達目標：

句読点を頼りに中国思想に関する漢文文献を読むことができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1、導入

2、中国思想原典会読 (1)

3、中国思想原典会読 (2)

4、中国思想原典会読 (3)

5、中国思想原典会読 (4)

6、中国思想原典会読 (5)

7、中国思想原典会読 (6)

8、中国思想原典会読 (7)

9、中国思想原典会読 (8)

10、中国思想原典会読 (9)

11、中国思想原典会読 (10)

12、中国思想原典会読 (11)

13、中国思想原典会読 (12)

14、中国思想原典会読 (13)

15、中国思想原典会読 (14)

6. 成績評価方法：

予習状況と討論での発言状況 (100%)

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せずプリントを配布する。参考書は講義のなかで紹介する。

8. 授業時間外学習：

辞書を引き、訓読と現代日本語訳を準備すること。

9. その他：なし

科目名：中国思想各論／ Chinese Thought (Special Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：三浦 秀一（教授）

講義コード：LB54201, **科目ナンバリング：**LHM-PHI302J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

明朝万暦期の陽明学

2. Course Title (授業題目)：

Yangming Thought at the Wanli Period in the Ming Dynasty

3. 授業の目的と概要：

明朝嘉靖期に王守仁が確立し、その愛弟子たちによって知識人社会に拡がりだし陽明学を、それに続く隆慶・万暦期の人士たちは、どのように受けとめたのか。本講義では、この時期を代表する幾人かの知識人が相互に贈りあった書簡の分析などを手がかりに、この問題の解明をこころみる。

4. 学習の到達目標：

陽明学関連の思想文献に示されたその独自の思考方法に慣れ、読解の手がかりをつかむ。
万暦人士が構想した思想、およびその思想史的位置について、専門的な知識を得る。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンス

第2回：管志道と鄒元標の往復書簡分析 1

第3回：管志道と鄒元標の往復書簡分析 2

第4回：管志道と鄒元標の往復書簡分析 3

第5回：管志道と鄒元標の往復書簡分析 4

第6回：管志道の「泰州学派」批判 1

第7回：管志道の「泰州学派」批判 2

第8回：鄒元標の陽明学理解 1

第9回：鄒元標の陽明学理解 2

第10回：中間まとめ

第11回：鄒元標と羅汝芳

第12回：羅汝芳と楊起元

第13回：鄒元標と楊起元

第14回：鄒元標と周汝登

第15回：まとめ

6. 成績評価方法：

レポート (100%)

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを配布する。

参考書は授業時間内にも紹介するが、荒木見悟『明末宗教思想研究』（創文社）は必読。

8. 授業時間外学習：

参考書・参考文献として紹介された資料を精読する。とくにそれらが使用した原典に関しては、その文献史料にまで溯り、その内容を自分なりに読み解くことによって、論者の解釈との異同を明確にしておく。

9. その他：なし

特になし。

科目名：中国思想各論／ Chinese Thought (Special Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：齋藤 智寛（准教授）

講義コード：LB64204, 科目ナンバリング：LHM-PHI302J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

中国仏教史書の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

General survey of Buddhist hagiographies in China

3. 授業の目的と概要：

後漢から五代十国までに活躍した僧侶の伝記を集成した書物として、梁・慧皎『高僧伝』、唐・道宣『統高僧伝』、北宋・贊寧『宋高僧伝』がある。本講義ではこれら三書について、これらに収録された記事を仏教史研究の資料とする視点と、その記事内容や編纂方針を通じてそれぞれの著者の思想や成立時期の思潮をうかがう視点とから考察する。講義では『統高僧伝』をやや詳しく取り上げ、それに前後する『高僧伝』『宋高僧伝』も『統高僧伝』と比較しつつ紹介したい。

4. 学習の到達目標：

三高僧伝の成り立ちと内容を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、導入
- 2、慧皎の伝記と『高僧伝』概要
- 3、道宣の伝記
- 4、『統高僧伝』概要
- 5、『統高僧伝』の版本問題
- 6、『統高僧伝』訳経篇の諸問題
- 7、『統高僧伝』義解篇の諸問題
- 8、『統高僧伝』習禅篇の諸問題
- 9、『統高僧伝』明律篇の諸問題
- 10、『統高僧伝』護法篇の諸問題
- 11、『統高僧伝』感通篇～雑科篇の諸問題
- 12、『統高僧伝』に見える三教交渉資料
- 13、『統高僧伝』と初唐の仏学
- 14、贊寧の伝記と『宋高僧伝』概要
- 15、まとめ

6. 成績評価方法：

レポート（100%）

7. 教科書および参考書：

講義中に随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

講義で扱う三高僧伝の訳書に目を通しておくこと。

9. その他：なし

科目名：中国思想各論／ Chinese Thought (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中(6), **単位数：**2

担当教員：末永 高康 (非常勤講師)

講義コード：LB98808, **科目ナンバリング：**LHM-PHI302J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

『礼記』の研究

2. Course Title (授業題目)：

Study of the Liji

3. 授業の目的と概要：

『礼記』『大戴礼記』を含む、以下同じ)の諸篇の諸問題について、前世紀後半以来の出土文字資料の知見をふまえつつ考察していく。

この考察を通じて、出土資料を含む戦国・秦・漢期の文献の取りあつかい方を理解するとともに、当該期の思想史を構成していく手法についての理解を深めることを目的とする。

4. 学習の到達目標：

『礼記』諸篇をめぐる諸問題を中心とした中国古代思想史の諸問題について理解を深めることができる。

新出土資料を含む戦国・秦・漢期の文献の取りあつかい方について理解を深めることができる。

戦国・秦・漢期の思想史を構成する手法について理解を深めることができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入—新出土資料出現以前の研究状況と新出土資料出現のインパクト
2. 『子思子』をめぐる諸問題(その一)—『礼記』緇衣篇と楚簡『緇衣』
3. 『子思子』をめぐる諸問題(その二)—『礼記』中庸篇と『性自命出』
4. 『子思子』をめぐる諸問題(その三)—『礼記』坊記篇・表記篇と郭店楚簡
5. 『曾子』をめぐる諸問題(その一)—『大戴礼記』の曾子十篇と『内礼』
6. 『曾子』をめぐる諸問題(その二)—「孝」を主題とする諸篇について
7. 新出土資料と重複する他の諸篇について—『礼記』孔子問居篇、『大戴礼記』武王践阼篇など
8. 『孔子三朝記』をめぐる諸問題—『大戴礼記』千乘篇等八篇
9. 『礼記』と『儀礼』の「記」(その一)—武威漢簡『儀礼』をめぐる
10. 『礼記』と『儀礼』の「記」(その二)—『礼記』曲礼篇
11. 『礼記』と『儀礼』の「記」(その三)—『礼記』冠義篇以下の六篇
12. 先秦礼文献としての坊記篇—附『礼記』礼運・礼器・郊特牲三篇
13. 変礼をめぐる(その一)—『儀礼』における礼の分岐と『礼記』奔喪篇
14. 変礼をめぐる(その二)—『礼記』檀弓篇と曾子問篇
15. まとめ

方法：講義形式で行うが、演習や討議も取り入れる。受講者はあらかじめ配付された資料等に目を通しておくこと。また、授業で取り上げる諸問題について、討議を行うこともあるので、主体的に参加すること。

6. 成績評価方法：

評価項目としては、授業中に課す課題(20%)、事後に課すレポート(60%)、授業における発言(20%)をもとに、総合的に評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書は特に使用しない。プリントを配布する。

参考書：『武内義雄全集(第三巻)』角川書店／末永高康『性善説の誕生』創文社

8. 授業時間外学習：

講義で取り扱う『礼記』の諸篇について、訳本によってでかまわないので事前に目を通しておくこと。

事前に配布する講義資料について、一通り目を通しておくこと。

9. その他：なし

特になし。

科目名：中国思想演習／ Chinese Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：齋藤 智寛（准教授）

講義コード：LB53206, 科目ナンバリング：LHM-PHI310J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

漢代思想文献精読

2. Course Title (授業題目)：

Reading and Research: the Thought of Han dynasty in China

3. 授業の目的と概要：

後漢・荀悦の『申鑑』を読む。主張の論拠や批判対象を調査した上で文献の論旨を理解し、訳注を作成する能力を涵養するのが目的である。

4. 学習の到達目標：

句読点のほどこされていない中国古典文を読み、日本語に翻訳することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入

2. 『申鑑』会読

3. 『申鑑』会読

4. 『申鑑』会読

5. 『申鑑』会読

6. 『申鑑』会読

7. 『申鑑』会読

8. 『申鑑』会読

9. 『申鑑』会読

10. 『申鑑』会読

11. 『申鑑』会読

12. 『申鑑』会読

13. 『申鑑』会読

14. 『申鑑』会読

15. 『申鑑』会読

6. 成績評価方法：

発表と討論での発言状況（100%）

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを配布する。

8. 授業時間外学習：

予習のほか、未解決箇所は授業後に調べて次回の討論に備えること。

9. その他：なし

科目名：中国思想演習／ Chinese Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：三浦 秀一（教授）

講義コード：LB63203, 科目ナンバリング：LHM-PHI310J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

『延平答問』を読む

2. Course Title (授業題目)：

Critical Reading of "Yanping Dawen"

3. 授業の目的と概要：

中国近世を代表する思想家・朱熹（朱子、1130-1200）が三十代半ばに編纂した『延平答問』（正編）を精読することによって、当時の朱熹がその師匠である李延平（諱侗、延平はその号、1093-1163）からどのような思想を吸収し、みずからの思想を形成していたのかという問題の解明をこころみる。授業は演習形式でおこない、担当者は、『延平答問』が収める朱熹と李侗とによる往復書簡をわかりやすい言葉で和訳することはもとより、書簡が引く『論語』や『孟子』などの古典や北宋諸儒の語録などに関して原典にもとづいた注釈を丁寧には

4. 学習の到達目標：

壮年期における朱熹の思想について、原典に即した理解を得る。

宋代における道学系文献の読解方法を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンスとテキストの紹介

第2回：『延平答問』訳注発表（1）

第3回：同討論

第4回：『延平答問』訳注発表（2）

第5回：同討論

第6回：『延平答問』訳注発表（3）

第7回：同討論

第8回：『延平答問』訳注発表（4）

第9回：同討論

第10回：『延平答問』訳注発表（5）

第11回：同討論

第12回：『延平答問』訳注発表（6）

第13回：同討論

第14回：『延平答問』訳注発表（7）

第15回：同討論

6. 成績評価方法：

発表（60%）、受講態度（40%）

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを配布する。

参考書・参考文献に関しては、第1回の授業時に紹介する。

8. 授業時間外学習：

担当者は、発表の準備を入念におこなう。担当者以外の受講者も、担当者と同等もしくはそれ以上に、読解のための予習をおこなう。また、発表時に配布されたレジュメ等に関しては、それを改めて読み直し、次回以降の授業に活用する。

9. その他：なし

特になし。